

お知らせ

令和7年 7月8日

社会医療法人厚生会 中部脳リハビリテーション病院

病院長 篠田 淳

中部脳リハビリテーション病院では下記の要領で臨床研究を予定しています。

研究題名 重症脳損傷後遺症患者の筋緊張に対する鍼治療の効果に関する調査（後方視的観察研究）

目的 既にある診療記録の情報を用いて、当院中部療護センター入院中に鍼治療を受けられた重症脳損傷後遺症の方の筋緊張の状態の推移を調査し、筋緊張異常に対する鍼治療の効果を明らかにすることを目的としています。

対象 2020年1月以降2025年6月までに中部療護センター入院中に鍼治療を受けた重症脳損傷後遺症性意識障害かつ肘関節屈筋群の緊張亢進を伴った患者の皆様

方法 以下の情報について診療記録から取得します。身長、体重、BMI、脳損傷の診断名、受傷機転、受傷後期間、入院後期間、脳外科手術の有無と内容、頭部MRIまたはCT画像所見、局所脳血流量値、局所脳糖代謝値、意識障害の状態に関する記録（Glasgow coma scale, Coma recovery scale-revised (CRS-R)（記録がある場合）、NASVAスコア、Minimally conscious state (MCS) (+/-)・unresponsive wakefulness syndrome (UWS)のいずれか）併存疾患の有無と内容、上肢Brunnstrom stage、投薬内容、理学療法の有無と内容、理学所見（肘関節伸展時のModified Tardieu Scale (MTS), modified Ashworth Scale (MAS)、関節可動域制限）の推移、鍼治療の内容

人権擁護 ヘルシンキ宣言に従い、被験者のプライバシーを尊重し、対象となる方が特定されないように、本研究で取り扱う情報に関して氏名等の明らかに個人を特定できる情報を削除し独自の符号を付す作業を行います。

研究代表者 矢野大仁（中部脳リハビリテーション病院・中部療護センター 脳神経外科）

中部脳リハビリテーション病院では患者様より得られた検査データを研究に使用することがある旨、院内に掲示しています。院内に保管してあるこれらの患者データを使用する研究を行う場合には、その都度、具体的な研究の概略を示し改めて研究に関わる患者データ使用に関するお知らせを行うことにしています。本研究(上記)では2020年1月以降2025年6月までに中部療護センター入院中に鍼治療を受けられた意識障害患者の皆様のデータを使用致します。この件につきまして疑義がございましたら令和7年8月31日までに下記までお申し出ください。

社会医療法人厚生会 中部脳リハビリテーション病院

事務長 坂下 重吾